

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名	長 崎 県
-------	-------

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	上 五 島 町 立 青 方 小 学 校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	1	2	2	2	2	1	12	16
児童数	52	33	54	49	48	43	1	279	

研究の概要

(1) 研修主題

基礎・基本の確実な定着を図る学習指導
～一人ひとりの実態に応じたきめ細かな指導の充実をめざして～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

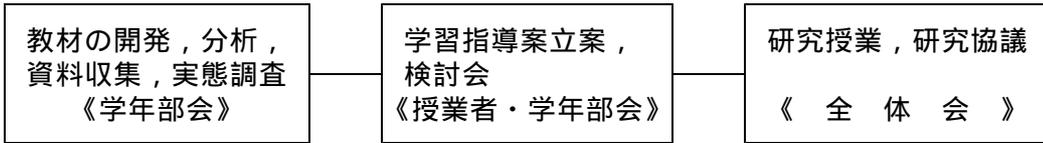
- ・全学年・算数
子どもの学力や能力に差が出やすく，少人数授業・習熟度別指導等の導入が必要と思われるため
- ・4，5，6年・理科
これまでの研究成果を生かし，教科の枠を広げ，研究に取り組むため
- ・1，2年・生活科
これまでの研究成果を生かし，教科の枠を広げ，研究に取り組むため

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 基礎・基本の確実な定着を図る学習指導 ～一人ひとりの実態に応じたきめ細かな指導の充実をめざして～</p> <p>仮 説 各教科・領域において，子どもたち一人ひとりの実態に応じたきめ細かな指導の充実を図るための教材の開発，指導方法，指導体制の工夫改善，学力の評価を生かした指導の改善を行うことにより，子どもたち一人ひとりが自主的・主体的に課題解決に取り組むとともに，基礎的・基本的な学習を粘り強く続け，確かな学力が身に付くであろう。</p> <p>研究内容</p> <p>(1) 確かな学力を持った子どもを育てるための教材開発，指導方法・指導体制，学力の評価を生かした指導法の改善</p> <p>(2) 自主的・主体的に課題に取り組む子どもを育てるための学び方を身に付けさせる指導方法の工夫改善</p> <p>(3) 学習に粘り強く取り組み，自己の学力を高めようとする子どもを育てるための体験学習・操作活動等の積極的な導入</p> <p>(4) 学力向上のための家庭・地域との連携の在り方</p> <p>研究の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則として，毎週火曜日（15：30～16：30）を研修日とする。 必要に応じて，他の曜日にも行う。 ・研究推進委員会，全体会，学年部会，専門部会を組織し，研究を推進する。 ・指導法の研究，仮説検証のために研究授業を行う。
--------	---

《研究授業の実施方法及び考察について》

- ・研究授業は，年間を通して各学年1回程度行う。
- ・研究授業実施にあたっては，下記の手順で事前・事後研究を行う。



授業仮説の設定

全体仮説及び各学年部会の具体仮説を授業の中で検証していく。そのために，それらの仮説を授業レベルにおろした形での「授業仮説」を設定する。

授業における仮説の検証及び検証デ - タの収集

参観者が授業仮説と関わる場面において，子供たちの反応・活動の様子などを観察し記録する。また，授業後に子供（学習者）から，必要に応じて学習アンケート（自己評価カ - ド）などを用いてデ - タの収集を図る。

研究協議の実施

各種デ - タをもとにして，仮説の有効性・妥当性について検討する。

平成
15
年度

テーマ 基礎・基本の確実な定着を図る学習指導

～ 一人ひとりの実態に応じたきめ細かな指導の充実をめざして～

仮説 各教科・領域において，子どもたち一人ひとりの実態に応じたきめ細かな指導の充実を図るための教材の開発，指導方法，指導体制の工夫改善，学力の評価を生かした指導の改善を行うことにより，子どもたち一人ひとりが自主的・主体的に課題解決に取り組むとともに，基礎的・基本的な学習を粘り強く続け，確かな学力が身に付くであろう。

研究内容 *変更の理由：研究の深化を図るため，昨年度の研究内容を精選した。

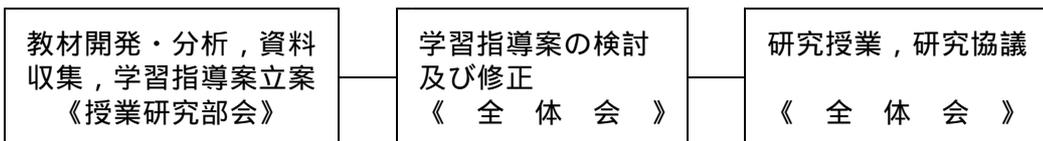
- (1) 確かな学力を持った子どもを育てるための指導方法の工夫改善
- (2) 確かな学力向上を図るための指導体制の工夫改善
- (3) 確かな学力向上のため評価活動の工夫改善
- (4) 自主的・主体的に課題に取り組む子どもを育てるための学び方を身に付けさせる指導方法の工夫改善
- (5) 学習に粘り強く取り組み，自己の学力を高めようとする子どもを育てるための指導方法の工夫改善
- (6) 地域連携

研究の方法 *変更の理由：円滑な研究推進のため，研修日・時間・運営等の工夫改善を行った。

- ・原則として，毎週火・木曜日（15：35～16：30）を研修日とする。
必要に応じて，他の曜日にも行う。
- ・研究推進委員会，全体会，授業研究部会，専門部会を組織し，研究を推進する。
- ・指導法の研究，仮説検証のために研究授業を行う。

《研究授業の実施方法及び考察について》

- ・研究授業は，年間を通して各学年1回程度行う。
- ・研究授業実施にあたっては，下記の手順で事前・事後研究を行う。



授業改善の視点及び授業仮説の設定

全体仮説及び各部会の具体仮説を授業の中で検証していく。そのために，単元レベルでの授業改善の視点及び本時の授業レベルでの「授業仮説」を設定する。

授業改善の視点及び授業仮説の検証及び検証デ - タの収集

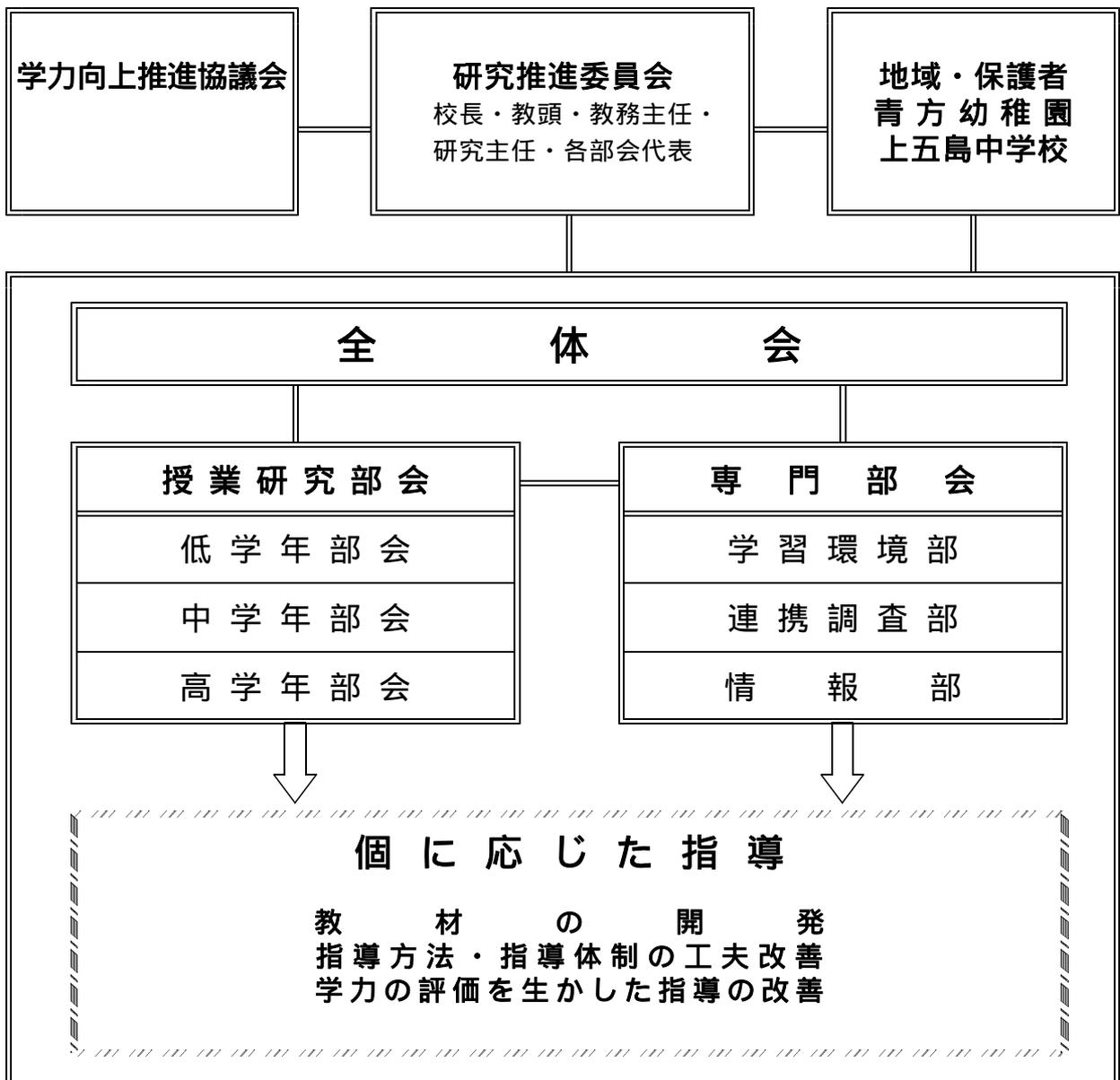
参観者が授業改善の視点及び授業仮説と関わる場面において，子供たちの反応・活動の様子などを観察し記録する。また，授業後に子供（学習者）から，必要に応じて学習アンケート（自己評価カ - ド）などを用いてデ - タの収集を図る。

研究協議の実施

授業改善の視点及び授業仮説の有効性・妥当性について検討するとともに、その成果と課題の集約を行う。
 ・学力向上フロンティア事業に関わる研究会等に積極的に参加し、資料の収集及び情報の提供等を随時行う。

平成 16 年 度	テーマ	平成15年度のテーマを継続する
	仮説	平成15年度の仮説をもとに深化を図る
	研究内容・方法 事業実施計画	平成15年度の研究内容・方法をもとに工夫改善を行う
		<ul style="list-style-type: none"> ・中間指導・公開授業（1学期中） ・推進地区内すべての学校参加による公開授業を伴う発表会（2学期中） ・フロンティアスクール最終報告書の作成（1月末）

(3) 研究体制 * 改善点：専門部会を再編し、研究体制の改善を図った。



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(1) 研究実践における成果

ア. 学力向上を図る教材の研究・開発

習熟度別指導における補足的な学習，発展的な学習コースにおける効果的な教材の開発

習熟度別指導を積極的に推進するために，算数科を中心に習熟度別学習コースにおける効果的な教材の開発を行い，授業実践を行った。算数科においては，各学年ごとに「補充・発展教材一覧表」を作成し，学習資料の累積・整理を行った。

イ. 個に応じた指導体制

少人数授業，習熟度別指導の計画的な導入

習熟度別指導活用区分類型

習熟度別指導の活用のしかたについて分類し，(ア)観点別類型と(イ)学級数別類型を作成することにより，計画的に習熟度別指導が実施できるようにした。

習 熟 度 別 指 導 活 用 区 分 類 型

(ア) 観点別類型

類型	コース設定	学年・教科	実践例(単元名)	指導計画類型	学級数別類型
1	単観点 (観点)	5年・算数	「小数のかけ算とわり算を考えよう」 (数学的な考え方)	A型	(イ) 単
2	複数観点	4年・算数	「わり算のしかたを考えよう」	B型	(イ) 単
		6年・算数	「比べ方を考えよう」	B型	(イ) 単
		5年・理科	「天気の変化(1)」	A型	(イ) 単
		6年・理科	「土地のつくりとはたらき」	A型	(イ) 単
3	興味・関心	1年・算数	「のこりはいくつ ちがいはいくつ」	D型	(イ) 全
		2年・生活	「ぼうけん，はっけん，町たんけん」	D型	(イ) 単
		3年・理科	「こん虫をしらべよう」	D型	(イ) 単

(イ) 学級数別類型

学級数	類型	指導者数	標準コース数	考えられる児童の学習活動(コース選択)
単学級		1名	2コース	単・単コース選択
		学級内習熟度別指導		複・複数コース選択
		2名	2コース以上	全・全コース選択 易しいコースから難しいコースへ 選択したコースから
2学級	2名	2コース以上		
		3名	3コース以上	

単元指導計画類型の作成

習熟度別指導における単元指導計画について分類し，各単元の特性に応じた指導計画の作成・実践ができるようにした。

習熟度別指導における単元指導計画類型

類型	指導計画の内容 (A:補充コース, B:適用コース, C:発展コース)																				
A 型	<p>大単元の終末(まとめ)又は各小単元の終末の段階において, 習熟度別学習コースに分かれる。</p> <p>学習課題・取り扱う内容・学習速度ともに各コースで異なる。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2">単元の流れ ▶</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">きめ細かな少人数授業</td> <td style="text-align: center;">A B 習熟度別指導 C</td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">きめ細かな少人数授業</td> <td style="text-align: center;">習熟度別指導 (1)</td> <td style="text-align: center;">きめ細かな少人数授業</td> <td style="text-align: center;">習熟度別指導 (2)</td> </tr> </table>	単元の流れ ▶		きめ細かな少人数授業	A B 習熟度別指導 C	きめ細かな少人数授業	習熟度別指導 (1)	きめ細かな少人数授業	習熟度別指導 (2)												
単元の流れ ▶																					
きめ細かな少人数授業	A B 習熟度別指導 C																				
きめ細かな少人数授業	習熟度別指導 (1)	きめ細かな少人数授業	習熟度別指導 (2)																		
B 型	<p>大単元の始め又は途中から習熟度別学習コースに分かれる。</p> <p>各単位時間の学習課題は共通であるが, 各コースごとに取り扱う内容及び学習速度が異なる。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2">単元の流れ ▶</td> <td colspan="2">単位時間の学習活動</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">B 習熟度別指導</td> <td style="text-align: center;">(Aコース) 共通の学習</td> <td style="text-align: center;">補充</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">C</td> <td style="text-align: center;">きめ細かな 少人数授業</td> <td style="text-align: center;">(Bコース) 共通の学習</td> <td style="text-align: center;">適用</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">B 習熟度別指導</td> <td style="text-align: center;">(Cコース) 共通の学習</td> <td style="text-align: center;">発展</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">C</td> <td style="text-align: center;">きめ細かな 少人数授業</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	単元の流れ ▶		単位時間の学習活動		A	B 習熟度別指導	(Aコース) 共通の学習	補充	C	きめ細かな 少人数授業	(Bコース) 共通の学習	適用	A	B 習熟度別指導	(Cコース) 共通の学習	発展	C	きめ細かな 少人数授業		
単元の流れ ▶		単位時間の学習活動																			
A	B 習熟度別指導	(Aコース) 共通の学習	補充																		
C	きめ細かな 少人数授業	(Bコース) 共通の学習	適用																		
A	B 習熟度別指導	(Cコース) 共通の学習	発展																		
C	きめ細かな 少人数授業																				
C 型	<p>大単元の始め又は途中から習熟度別学習コースに分かれる。</p> <p>学習課題・取り扱う内容・学習速度ともに各コースで異なる。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2">単元の流れ ▶</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A 共通の学習</td> <td style="text-align: center;">補充</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B 共通の学習</td> <td style="text-align: center;">適用</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">C 共通の学習</td> <td style="text-align: center;">発展</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">きめ細かな 少人数授業</td> <td style="text-align: center;">A 共通の学習 補充 B 共通の学習 適用 C 共通の学習 発展</td> </tr> </table>	単元の流れ ▶		A 共通の学習	補充	B 共通の学習	適用	C 共通の学習	発展	きめ細かな 少人数授業	A 共通の学習 補充 B 共通の学習 適用 C 共通の学習 発展										
単元の流れ ▶																					
A 共通の学習	補充																				
B 共通の学習	適用																				
C 共通の学習	発展																				
きめ細かな 少人数授業	A 共通の学習 補充 B 共通の学習 適用 C 共通の学習 発展																				
D 型	<p>選択課題別のコースに分かれる。</p> <p>児童の興味・関心及び能力等に応じて, 課題を選択する。</p> <p>課題に難易度をつけ, 習熟度別指導の準備段階として導入する。(主に低学年)</p>																				

学級内習熟度別指導の実践

五島は, ほとんどが学年単学級, 複式学級という実態にある。このような実態を踏まえて, 学級担任 1 人で習熟度別指導を行う「学級内習熟度別指導」の導入を研究実践した。

習熟度別年間指導計画（算数科・理科）の作成

算数科と理科においては、習熟度別年間計画を作成した。算数科では、「数と計算」領域を中心に単元指導計画類型A型を基本として全学年作成した。理科においては、習熟度別指導に適した単元を精選して作成した。

この年間指導計画をもとに授業実践を行ったが、A型ばかりでなく、B・C・D型を含めて実践化を進めてきた。

ウ．発展的な学習，補充的な学習の指導

情報交換会

特に補充的な学習が必要な児童については、定期的に情報交換会を行い、実践報告及びその分析を積み重ねてきた。

フロンティアタイム

毎週火曜日から金曜日まで、毎朝15分間の繰り返し学習ができる場を設定することで、確実に基礎的・基本的な力をつけるようにした。また、学習課題や進め方を工夫させることで、楽しく主体的に学習に取り組む態度を身に付けさせることをねらいとして実施している。

補充指導の時間

毎週水・木曜日の30分間、学習内容の定着が図られていない課題について復習をすることを中心に場を設け、確実に学習内容を身に付けさせるようにした。また、学習内容の定着が十分でない児童に対して、個別指導を実施した。

エ．指導と一体となる評価

単位時間ごとの評価計画の作成

単元計画の中に単位時間ごとの評価計画を作成している。評価規準に基づいて、単位時間に1～2観点の形成的評価を行い、その際できるだけ客観的に評価活動がなされるように具体的な評価方法についても記述し、その後の指導に生かすようにしている。

（例）第6学年算数科「単位量あたりの大きさ」

小単元	時	関心・意欲・態度	数学的な考え方	表現・処理	知識・理解
		具体的な評価方法	具体的な評価方法	具体的な評価方法	具体的な評価方法
単位量あたりの大きさ (8時間)	1		単位量あたりの考えを用いて、混み具合を考えている。		混み具合を比べるには、単位量あたりの考えを用いればよいことを理解している。
	2		・ノートの記述内容や発言内容に単位量あたりの考え方があるかどうか把握する。		・記述式の小テストを行い、正答率を把握する。 正答率 100～90%：A 89～65%：B 64%以下：C

評価基準の設定

指導と評価の一体化を進めるために、学校の評価基準を設定し、日々の評価が確実に客観的に継続・実践できるようにしている。

(2) 児童の学力に関わる成果

ア. 学力検査の分析結果から

14年度6月実施の算数科の学力検査の結果と15年度6月実施の学力検査の結果を比較分析すると、数値的に明らかに学力の向上が見られた。昨年度は、算数科の各領域ともに全国平均をやや下回る傾向にあったが、本年度はどの領域においても全国平均値を上回る結果となっている。

これを5段階評定で見ると、2の段階の児童は3の段階へ、3の段階の児童は4の段階に移行する傾向が顕著に現れている。また、1の段階の児童の減少、5の段階の児童も増加している。

学力検査の分析

全校的な1年間の学力の推移はどうか

表1 平成14年6月測定 全国比(全国=100の場合)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	平均
数と計算		94	88	98	97	99	95
量と測定		99	92	99	90	100	96
図形		90	83	98	98	108	95
数量関係				102	93	85	93

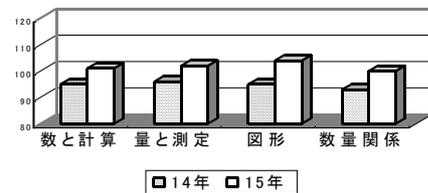
表2 平成15年6月測定 全国比(全国=100の場合)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	平均
数と計算		96	99	98	109	103	101
量と測定		99	107	102	104	98	102
図形		99	112	109	104	98	104
数量関係				103	103	93	100

表3 平成14年6月と平成15年6月との比較

	14年	15年
数と計算	95	101
量と測定	96	102
図形	95	104
数量関係	93	100

平成14年から1年間の推移(全校)



同じ児童にとって、学力はどう変化したか

表4 現3年生の推移

	2年のとき	3年のとき
数と計算	94	99
量と測定	99	107
図形	90	112
数量関係		

現3年生の推移

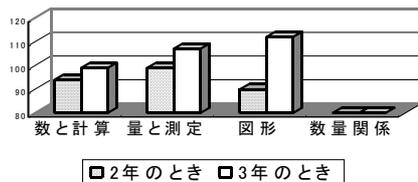


表5 現4年生の推移

	3年のとき	4年のとき
数と計算	88	98
量と測定	92	102
図形	83	109
数量関係		103

現4年生の推移

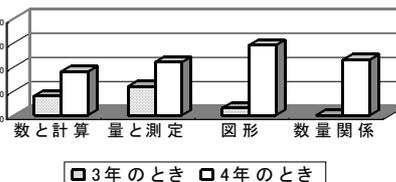


表6 現5年生の推移

	4年のとき	5年のとき
数と計算	89	109
量と測定	99	104
図形	98	104
数量関係	102	103

現5年生の推移

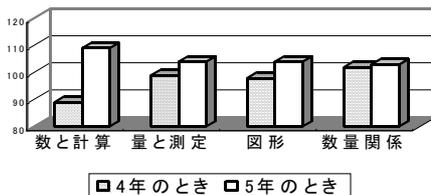
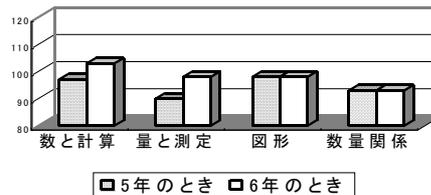


表7 現6年生の推移

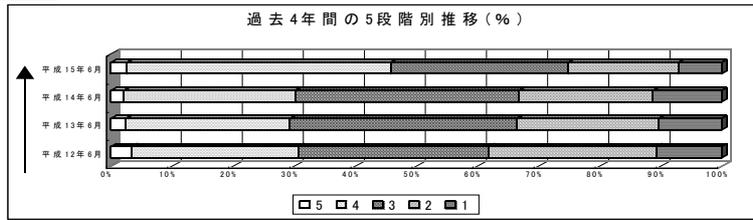
	5年のとき	6年のとき
数と計算	97	103
量と測定	90	98
図形	98	98
数量関係	93	93

現6年生の推移



5段階の分布はどう変化したか

段階	11年度	12年度	13年度	14年度
	平成12年6月	平成13年6月	平成14年6月	平成15年6月
5	8	6	5	98
4	64	65	65	68
3	73	90	85	66
2	64	56	51	41
1	25	25	26	16
合計	234	242	232	227



年度内で学力の推移を計測するとどうなるか

毎年6月の1回実施では、その年度の指導結果が出るのは翌年度の6月まで待たなければならなかった。そこで、平成14年度はその年度の研究の成果を検証するために、6月と2月の2回実施した。これなら、研究の検証ができて次年度への手立て(対策2)が可能になる。



表9 平成14年6月測定時の学年別5段階別人数

段階	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
5	0	1	2	0	1	4	4
4	21	11	12	4	11	59	59
3	13	15	20	9	19	76	76
2	11	9	11	6	8	45	45
1	10	11	2	2	1	26	26

表11 8ヶ月間の推移(人)

段階	平成14年6月	平成15年2月
5	4	13
4	59	89
3	76	81
2	45	54
1	26	27

表10 平成15年2月測定

段階	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
5	2	0	7	1	3	0	13
4	14	11	21	13	9	21	89
3	7	21	9	15	16	13	81
2	9	12	5	11	13	4	54
1	1	11	5	7	1	2	27

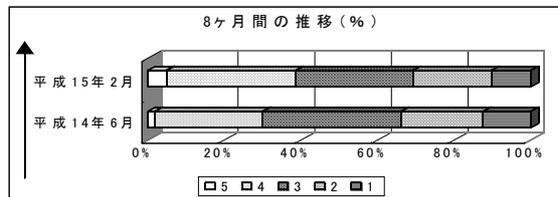


表12 平成14年度の担任の分析と算数TT担当の分析

	1年担任	2年担任	3年担任	4年担任	5年担任	6年担任	算数TT担当
成果	フロンティアタイムと補充指導の時間をいれた。積み木の操作活動で図形の力がついた。	数と計算の領域に訓練学習をしたが、確実さが足りなかった。	九九サーキットの継続。1分間九九。赤猫スキルを最低4回。ミニ定規で計算させた。	フロンティアタイムと補充指導の時間では式と計算を重点指導をした。	それぞれの段階に応じた指導ができた。	少人数授業・習熟度別指導の導入により、中間層の子が上昇している。	全体的に計算が速くなった。学力の差はあっても、どの段階の子も4月に比べて意欲が出てきた。途中で投げ出したりしない。
課題	2の段階の子を3にした。	4の子が少ない。問題文の確実な読み取りが課題。	フロンティアタイムや補充の時間をもっと計画的に。	問題の意味がわかっていない。繰り返し指導する。	継続的な繰り返し学習の不足。1の子への手立て。	発展問題。繰り返し学習の不足。1の子への手立て。	文章題の意味が理解されていない。説明すればわかる。繰り返し学習が大切。

イ. 学び方実態調査の集計結果から

児童への学び方アンケートを14年度と15年度に実施した。その分析結果は以下の通りである。

学習規律に関すること

「よくできている」又は「できている」と答えた児童が昨年度よりも平均4%程度増加した。特に、ノートを丁寧に取るようになったという児童が増えている。

学習意欲に関すること

「よくできている」又は「できている」と答えた児童が平均6%増加した。特に、わからないところを進んで質問するようになったという児童が約10%増えた。

家庭学習に関すること

家庭学習については、昨年度とほぼ同程度の結果であった。ほとんど家庭学習に取り組んでいない児童が全体の約8%、宿題以外に予習・復習をする児童は全体の約40%である。その他の児童は宿題があればすると答えている。読書については、昨年度は全くしない児童が全体の40%近く見られたが、本年度は20%程度まで減ってきている。

少人数授業・習熟度別指導に関すること

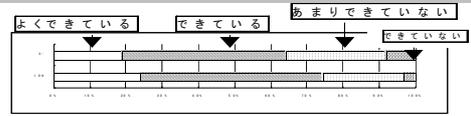
習熟度別学習コースに分かれて学習することが「とても好き」又は「好き」と答えた児童は全体の80%であった。好きな理由としては、「自分に合った学習で分かりやすい」「難しい問題に挑戦できる」「たくさん問題がとける」というものが多かった。

それに対して「嫌い」と答えた児童は全体の5%程度であり、その主な理由としては、「コースによって学習する内容がちがうから」「自分の教室で学習したい」というものであった。

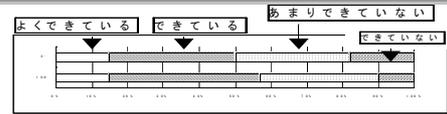
学習のかまえ

学習する前に学習用具や教科書・ノートが机の上に準備できていますか？ (%)

全体	よくできている	できている	あまりできていない	できていない
3月	19	45	28	8
10月	24	50	23	3



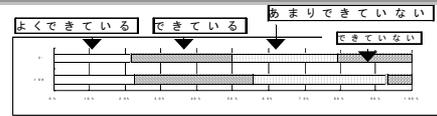
全体	よくできている	できている	あまりできていない	できていない
3月	15	35	32	18
10月	15	42	33	10



学習意欲

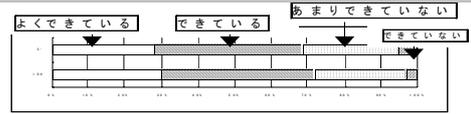
進んで学習しようとしていますか？ (%)

全体	よくできている	できている	あまりできていない	できていない
3月	22	28	29	21
10月	23	33	37	7



わからないところを質問しようとしていますか？ (%)

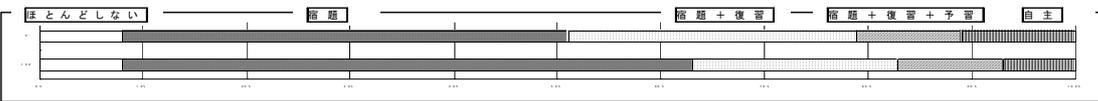
全体	よくできている	している	あまりしていない	していない
3月	28	41	26	3
10月	30	42	25	5



家庭学習

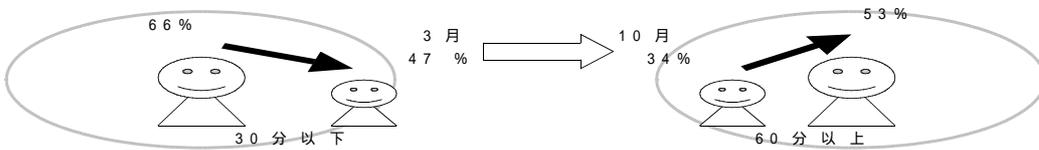
家での学習は、つぎのうちどれに近いですか？ (%)

全体	ほとんどしない	宿題	宿題+復習	宿題+復習+予習	宿題+自分が興味をもっているもの
3月	8	43	28	10	11
10月	8	55	20	10	7



どれくらい読書を読みますか？ (%)

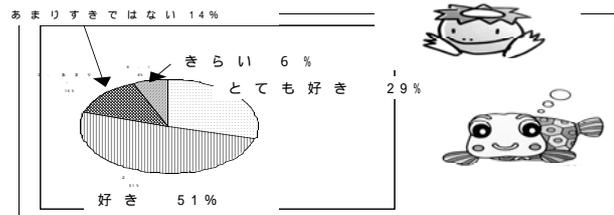
全体	ほとんどしない	30分ぐらい	1時間ぐらい	2時間ぐらい	4時間ぐらい	5時間ぐらい
3月	36	30	14	11	4	5
10月	21	26	21	21	6	5



算数

算数でコースにわかれてする学習は好きですか？

(人)	とても好き	好き	あまり好きではない	きらい	合計
1年	35	13	2	1	51
2年	20	8	3	1	32
3年	27	12	11	4	54
4年	12	28	7	3	50
5年	5	22	9	6	42
6年	6	26	9	1	42



- 好きな理由の主なもの
- 自分に合った学習でわかりやすい。
 - 違うクラスの人と一緒に学習できる。
 - 難しい問題に挑戦できる。
 - たくさん問題が解ける。
 - 発表の回数が増える。
 - わからなかったことがわかるようになる。

- 嫌いな理由の主なもの
- コースによってやる内容とやらない内容がある
 - 自分の教室でしたい。
 - みんなで学習したほうがよい。
 - 自分が行くと思口を言われる。
 - むずかしい。



(3) 研究内容に関わる成果

ア. 学力向上のための授業改善について

指導方法

学力の定着を図るための教材開発は、授業研究部会が中心となって進めている。日々の実践の中で蓄積した発展教材・補充教材の整理もできつつあり、これからさらに有効な教材の開発を続けていく。

子どもたちが楽しみながら主体的に学習に取り組むことができる教材（体験的活動・学習ゲーム）の開発を行ったことで、学習活動の幅が広がってきている。

自主的な課題解決のための学習指導としては、単位時間の学習指導において「練り合い」の場を設定するなどして工夫改善が進んでいる。

繰り返し学習、鍛錬、訓練学習は、授業実践とともに、フロンティアタイムや補充指導において計画的に実践できている。その成果が児童の学力の定着・向上となってあらわれている。

指導体制

少人数授業・習熟度別指導については、算数科を中心に授業実践を積み上げてきた。各種類型を作成するとともに、年間指導計画の作成・実践も計画的に行うことができた。また、実践の中から、さらに進んだ習熟度別指導のスタイルも生まれてきている。

教師も子どもも指導スタイルに馴染んでいる。また、コースの選択について戸惑うようなことも少なくなった。

T・T指導については、各学期ごとに役割分担についての実践をまとめた。

評価活動

個々の子どもの実態を把握するために、評価規準に基づいた観点別の形成的評価を単位時間ごとの評価や子どもの自己評価カード等を活用して継続している。また、学校の評価基準を作成し総括評価が客観的な評価となるように工夫改善を行ってきた。

イ. 主体的な学び方の育成について

学び方の指導

全学級の取組を一覧表にまとめて、系統的な学び方指導ができるように改善を試みている。

進んで学ぶ子どもを育てる指導

体験学習や操作活動の導入を積極的に行うことにより、子どもたちの学習意欲が増し、どの学年においても粘り強く学習に取り組む姿が多く見られるようになってきた。

発展的な学習においては、学習したことを身近な生活の場に生かす体験的な活動を導入した。このような学習を取り入れることにより、学習したことが生活の場に生かせることに気づき、さらに学習意欲を喚起することにつながった。

ウ. 校種間及び家庭・地域との連携

家庭・地域との連携

学校開放日での授業参観において、積極的に少人数授業や習熟度別指導の様子等を家庭や地域に公開してきた。そのため、家庭・地域ともに本校の取り組みを理解するとともに、様々な形で協力してもらうことができるようになった。保護者へのアンケートにおいても、少人数授業・習熟度別指導に期待する声が多く出されている。

(4) 教員の意識改革から

習熟度別指導についての意識の変化

- ・研究を始めた当初は、習熟度別指導を導入することに不安感や抵抗感を抱いている教師が見られた。しかし、研究が進み、習熟度別指導の具体的な実践を積み重ねていく中で、その効果が「児童の学力の定着・向上」、「主体的に学ぶ姿」として実感できるようになってきた。そのため、当初抱いていた不安・抵抗感はなくなり、中間指導を重ねるたびに習熟度別指導を積極的に取り入れて授業改善を行おうとする意欲的な姿勢が全教員に見られるようになった。その結果、教師集団として、算数科の年間指導計画の充実・改善につながり、きめ細かな少人数授業・習熟度別指導を中心とした意図的・計画的な授業改善がなされるようになった。

授業改善に向けての意識の変化

- ・一斉・画一型の授業から脱却し、主体的な学び方の育成をめざして研究を進めてきたことにより、教師の授業改善に対する意識に変化が見られた。児童の主体的な学びを支援するための単元指導計画や単位時間の指導方法の工夫改善はもとより、児童の主体的な学習を支える教材開発や教材研究、資料作り、発問の工夫などにどの教員も熱心に取り組むようになった。

(5) 保護者の意識の変化から

学校長による「学校だより」、連携調査部による「フロンティアだより」の発行や学校開放日での授業参観の実施等により、本校の取り組みに対する保護者の意識に変化が見られた。特に、習熟度別指導についての理解が深まり、学校への協力・支援が以前にも増して活発となってきた。

保護者・地域人材による「学校支援ボランティア」を組織し、教科指導や学校環境の整備等に積極的に関わる体制作りも行った。保護者を中心に学校教育に対する関心や理解が深まり、学校・家庭・地域が緊密な連携を取って教育活動を推進しようという意識が高まってきた。



2. 今後の課題

発展的な学習・補足的な学習については、習熟度別指導において日常的に取り組んでいるが、さらに工夫する必要がある。

学年教科担任制については、計画を立てたが時間割等の調整がつかず実践化できていない。そこで、単元を限定した交換授業形式での導入を高学年部会で予定している。

A評価をする際に評価規準が曖昧な面が見られた。A評価をする際の規準づくりをする必要がある。

家庭学習については、高学年を中心として、自主的な家庭学習の習慣化を図るための取組（スクラムプラン）を実施している。しかし、活用に個人差が大きい傾向にあり、なかなか習慣化が図られていない子どもも見られる。今後、家庭学習を粘り強く続けるための手だての工夫改善が必要である。

学力等把握のための学校としての取組

学力検査の実施（年2回）

- (1) 第1回学力検査 *検査結果については、項目に記載
- ・学力検査名 教研式標準学力検査
 - ・対象学年 2～6学年
 - ・実施教科 算数科，国語科
 - ・実施期日 平成15年6月5日
- (2) 第2回学力検査
- ・学力検査名 教研式標準学力検査
 - ・対象学年 全学年
 - ・実施教科 算数科
 - ・実施期日 平成15年2月4日（予定）

学力向上対策情報交換研修会

- ・特に補充的な「指導を要する児童への取組」についての情報交換を行い，その対策を研修する。（毎月）

「学び方」実態調査 *調査結果については、項目に記載

- ・児童の学習規律，学習意欲，家庭学習の様子等について調査することで，児童の実態把握を行う。（平成14年3月，平成15年10月実施）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

学力向上フロンティアスクール・公開授業開催

- (日時) 平成15年6月17日(火)
- (場所) 上五島町立青方小学校
- (テーマ) 基礎・基本の確実な定着を図る学習指導
～一人ひとりの実態に応じたきめ細かな指導の充実をめざして～
- (対象) 上五島地区内すべての学校
- (参加方法) 公開授業

学力向上フロンティアスクール・推進地区内すべての学校参加による公開授業を伴う発表会(中間発表会)開催

- (日時) 平成15年11月20日(木)
- (場所) 上五島町立青方小学校
- (テーマ) 基礎・基本の確実な定着を図る学習指導
～一人ひとりの実態に応じたきめ細かな指導の充実をめざして～
- (対象) 推進地区内すべての学校
- (参加方法) 公開授業を伴う発表会

学力向上フロンティア事業・推進地区内すべての学校参加による公開授業を伴う発表会開催予定

- (日時) 平成16年予定
- (場所) 上五島町立青方小学校
- (テーマ) 基礎・基本の確実な定着を図る学習指導
～一人ひとりの実態に応じたきめ細かな指導の充実をめざして～
- (対象) 推進地区内すべての学校
- (参加方法) 公開授業を伴う発表会

HPによる情報公開 平成15年9月1日(月)より
ホームページアドレス (<http://www12.ocn.ne.jp/~aosh/>)

フロンティアティーチャーとしての研究成果の普及活動

- ・平成15年度小学校教育課程研究協議会・全体会実践発表
- (日時) 平成15年7月25日(金)
- (場所) 福江文化会館
- (テーマ) 「学力向上フロンティアスクールとしての取組」

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 1 5 年度からの新規校 1 4 年度からの継続校
- 【学校規模】 6 学級以下 7 ~ 1 2 学級
 1 3 ~ 1 8 学級 1 9 ~ 2 4 学級
 2 5 学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T, Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無